

2009年(平成21年)8月27日 木曜日



報道のあり方を問い、  
犯罪被害者への理解を  
訴える高橋さん

妻行方不明・高橋さん講演

過熱報道の問題指摘

おかやま塾  
お適

多彩な視点で地域のあり方を考える「第54回おかやま塾」が26日、山陽新聞社さん太ホール(岡山市北区柳町)で開かれた。NPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ副理事長で、2002年に津山市で妻が行方不明になった精神科医の高橋幸夫さん(66)が「報道に奪われた妻、それでも生きて往かねばならない」と題して講演した。

妻が連れ去られ、県警が事情を聴いた男が自殺、現金を引き出したとされる女が白骨遺体で発見された事件。高橋さんは過熱報道が男の自殺につながった

として、「メディアも妻が帰れなくなった犯人。今でも思い出すと、怒りがわき出す。妻をなくした喪失感と、それでも生きねばならない苦しみがある」と癒えない心境を明かした。

NPOでの支援活動については「被害者を生まない安全安心な社会を目指し、被害者として生きる意味をそこに見いだしている」と話した。(平田知也)